

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	地域密着型サービスとしての役割を目指すため、職員全体で確認した理念をつくりあげている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	すべての職員に理念を周知徹底し、日々の業務の中で実現を目指している。数多くの関わりの中で理念の実現がなされているか確認しあうように話し合っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	地域の料亭での食事会、地域小学校への運動会見学、秋祭りに地域の人を招待するなど理念を理解してもらえよう取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	隣にあるうどん店や、仕出し店、みやげ物店などを利用したり、祭りのときに作った、すしを配ったりしている。また、入居者の病院送迎や散歩の際に会う人には、挨拶をするよう心がけている。また管理者は地域の方へ災害時等に協力していただけるよう呼びかけを行っている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の運動会や祭り等への参加、小学生や保育園児の定期的な訪問等。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成への貢献として実習生の受け入れを行っている。定期的に救命訓練を行っており、AEDも常備しているため、地域住民に何かあった場合でも対応できる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価がなぜ行われるのか、その目的と意義を職員全体が理解している。自己評価は全職員が、様々な形でかかわって行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を地域の理解と支援を受ける重要な機会ととらえ、参加メンバーから真摯な意見をいただけるよう配慮している。これまで取り組んできたことも報告し、評価をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	権利擁護を利用している入居者を地域包括支援センターより紹介していただき、今後その方を成年後見制度へ移行するにあたり、町職員や社協職員等も出入りするようになり、ホーム職員とも顔馴染みの関係が築けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	H19.11町民センターの成年後見制度研修会にほとんどの職員が参加し、報告書も提出している。また、現在入居している方を、町職員が中心となり成年後見制度申請中で、関係機関との連携を通してホーム職員にとって身近な制度となっている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による虐待はあつてはならないが、日々の業務の中でミーティングで、絶えず利用者への介護のあり方を話し合っている。また、H20. 5に高齢者虐待についての勉強会を実施。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとって丁寧に説明している。ケアについての考え方や取り組み、事業所としての対応可能な範囲について説明を行うことによって家族の不安や疑問に答えている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者も出席し、意見を出してもらうようにしている。また、普段でも入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者中心の運営を心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態、エピソード等を毎月手紙でお知らせしている。金銭管理は出納帳記入、現金管理を厳密に行い、毎月領収書を付けて家族へ報告している。また何らかの変化、問題が起きたときは、家族への連絡を細かく行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や家族会、地域促進会議等で、つねに発言していただけるよう配慮している。また、玄関に意見箱を設置し、意見・苦情は事業所にとって、たいせつな宝として認識している。第三者苦情処理委員を外部の方をお願いしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の要望や意見を聞くように心がけている。日々の勤務の中で、職員の思いをくみ取る努力もしている。また、定期的に職員会議や個別面談も行っており、意見を伝える機会を確保している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤者は日中から利用者との関係ができてきている職員である。管理者は状況に応じた対応ができるように通常のシフトに入れていないため、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制がとれている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には1階、2階の職員を固定化し顔見知りの職員による支援をうけられるように配慮している。異動や離職がやむを得ない場合も、利用者には十分説明し、ダメージを最小限にするよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に、順次実務者研修、リーダー研修を受けてもらっている。事務所外での研修には、なるだけ多くの職員が参加できるように配慮している。研修結果、研修資料が閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国組織の同業者ネットワークに加入している。他同業者との間で、実務者研修の一環として職員交換の施設実習を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が利用者と離れ、一息つける場所を確保している。管理者は、日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法にのっとり、職員の労働条件を整える。就業規則も整備されている。職員の資格取得に向けて支援を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、本人や家族の求めている生活や不安に思っていることを確認している。サービスの利用について相談があった時は本人に会って、本人の話を傾聴し、優しく丁寧な言葉かけを行い、安心感をもってもらい職員を受け入れられるような関係づくりをしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期相談の時、家族と何度も繰り返し話し合いの場を持ち、家族の意思と本人の意思とを区別して把握したうえで、家族の求めているものを理解し、適切なサービス提供が行えるか、事前に相談を行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築き必要なサービスにつなげている。必要なときには他の事業所を紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族、それまで関わっていた関係者に見学してもらい、安心感をもってもらう。顔見知りの職員や利用者との関わりから他の利用者や場の雰囲気に馴染めるように支援し、生活が安定するのを見極めて利用に移行している。やむを得ずすぐ利用になった場合は、家族や関係者にきてもらい安心感がもてるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、支援する側とされる側にとらわれない関係性を築いている。普段から入居者に教えてもらったり、そういう場面がもてるよう工夫や声かけに配慮している。介護理念を職員全体が周知し、支えあう対等な関係となっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時にも、利用者の生活のようすを決め細やかに伝え、また気づきなどの情報共有に努めている。入居者主体の視点にたち家族とともに支えるための支援の相談を行っている。変化があれば面談や電話連絡などで情報提供をし、相談し合い要望を聞き、家族と同じ思いで問題解決にあたっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらよりよい関係が築けている。また、家族と本人の思いが結びつくような働きかけを行ったり、レクリエーションも家族の協力を得て行われており日常的、定期的に家族の関係が途切れず良好に保たれている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたデイサービスへ出かけたり、札所参りや地元小学校の運動会に参加している。また行きなれたスーパーでの買い物も行っている。馴染みの知人や友達と交流する機会をもち、外出する馴染みの場所を個別にもっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日の食事やおやつ時間は職員も一緒に多くの会話をもち、利用者同士の関係が円滑になるように調整役として支援している。また、心身の状態や気分、感情面に変化がないか注意深く見守り、個別に話を聴いたり、相談に乗っている。入居者は職員の働きかけと、自らの力でお互いの役割を通して支え合う関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了されても、いつでも気軽に遊びに来てもらえる雰囲気をつくっている。また、入院した場合は心身の状態確認をし、家族の相談に乗るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。本人の発言や表情から、本人にとって、どこで、誰と、どのように暮らすことが最良なのか、常に意見を出し合い話し合っている。必要に応じ、個別にゆっくり時間をかけ話を聴き、家族とも連絡を取り合って検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用申し込み時より、本人や家族、それまでに関わっていた関係者より情報収集をしている。また、利用後も折に触れ本人自身の語りや家族・知人等の訪問時に話を聴いたり、生活の場における気づきによって把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や発言、何気ない動作から感じ取り、本人の全体像の把握をしている。生活・心理面に視点をおき、できないことよりできることに注目し継続できるように支援し、力を引き出すよう働きかけを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく過ごしていただけるよう日々のかかわりの中や、担当者会議等で本人・家族の要望を聞き、モニタリングやカンファレンスを行い、課題となることを話し合い、入居者主体の介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化によりサービス変更の必要が生じた場合は、終了する前であっても検討し見直しを行うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。毎日勤務開始前の確認を義務付け、又、個別記録を基に介護計画を見直し評価を実施している。大きな状態の変化や家族からの要望は個別記録に残し、申し送りノートを利用し職員が周知している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等の必要な支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察署や消防署とは連携を取っている。小学校の運動会や町主催の行事に参加している。又、図書館から本やCDを借りたり、公共施設での映画鑑賞にも参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の図書館を利用し、公共施設の見学や地元の祭り等催し物の訪問をうけている。同法人の運営するデイサービスの行事や慰問に招待を受けている。月2回、訪問理容サービスを利用し、希望があれば近所の美容院に出かけている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に定期的に参加していただいております。またH20.4に紹介して頂いた権利擁護を利用している入居者を通じて、話しをする機会も多くなっています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院は本人やご家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行しており、入居契約時のその旨を説明し、同意を得ている。協力病院の担当医が週1回訪問診療を行い、入居者は医療や生活の心配事を相談している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	普段は協力医院の担当医に相談し、指示や助言を受けている。必要に応じ、担当医の指示で大学病院や県立病院、地域専門病院等を受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	母体の医院(主治医)の看護師と介護職員とは、気軽に相談できる関係ができており、看護師と提携医療機関との連携も密に取れる体制を確保している。毎日医院の主治医に、申し送りを行い、健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。また、24時間主治医に連絡できる体制が確保されている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の情報提供を行っており、また管理者や職員が見舞いに行った際に病院関係者からも情報を得ている。家族との連絡も取り合い、早期に退院できるよう回復状況の確認や退院後の相談を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、事業所が対応し得る最大のケアについて、家族と担当医を交え、話し合いの場を持っている。状態の変化があるときは、その都度家族に連絡を行い、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援している。また、担当医より方針についての説明を職員は受けており周知している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心と安全を確保し、対応が可能な事、困難な事、不安な事などを相談し見極め、よりよい暮らしが続けられるよう支援に努めている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られる場合は、介護サマリー等を使用し必要な情報提供を行っている。	○	前外部評価以来1名自宅へ帰れた方はいるが、他事業所へ転居された方はいない。もし転居が決まった場合は、転居先の関係者と、その方のケアについて話し合う機会を持ちたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マナー等の勉強会や職員会議、日々のミーティングの際に、職員の意識向上を図り、入居者の誇りやプライバシーを損ねないような対応の徹底を図っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事計画や食事メニューを作成する時等、意見や希望を尋ねている。また、日常生活の中でも、その日の衣服、飲み物、レク等決定する場面を作り、できるだけ取り入れていけるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過し方はしていない。一人ひとりの状態や思いに配慮しながら、その日、その時の気持ちを尊重し、買い物や散歩等、柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは、基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要ときに手伝うようにしている。月2回地域の理容店が訪問してくれているが、なかには馴染みの美容院へ行き、カットやパーマをしている方もいる。自己決定がしにくい入居者には会話しながら表情で汲み取り、生活歴を考慮しおしゃれを楽しんでもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てたトマト、イチゴ、ネギを楽しみながら職員と一緒に採取し、食材として活用している。また、盛り付け、食器洗い、食器拭き、テーブル拭き、調理指導等、個々にできる範囲で関わっていただいている。	○ 食事に限っては、現在一緒にには携わっていないため検討したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、一緒に買い物に出かけている。おやつは居室に管理されている方もおられ、本人の様子を見ながら楽しめるような支援をしている。たばこを吸われる方はいないが、梅酒、甘酒を飲んでいる方はいる。	○ 本人や家族から喫煙の要望があった場合は、火災のリスクを含め検討したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	チェックシートから、排泄パターンを個別に把握している。トイレ誘導をすることでトイレでの排泄を促している。安易に紙オシメや紙パンツを使用するのではなく、何度も検討し、できるだけトイレで排泄ができるように支援している。また、自力でのトイレ移動(特に夜間)が負担な入居者にはポータブルトイレを使用しており、衛生面にも注意をはらっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただけるよう努めている。仲の良い方同士は、一緒に入ることもあり、楽しんでいただいている。入浴を嫌がる方には、声かけにも工夫したり、入浴剤など使用し気持ちに変化をもたらすよう支援している。また、職員の介助の負担を気にしていないか、心理面も見極めるように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の一日の過ごし方のパターンを把握し、個別に日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。寝付けない時には、温かい牛乳を飲みながら職員と過ごしたり、ベッドサイドに付き添い安心感をもってもらい、時には掌のツボを刺激するなど工夫している。また、家族と相談したり、医師に薬剤を処方してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホーム内での役割がほぼ定着しており、感謝の言葉を伝えている。食事作りや菜園など経験や知識を発揮する場面を作っている。入居者と職員とではおかせ会議を開催し、外出先や行事を相談しながら行い、積極的に意見が述べられ実現する場をもっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を自己管理している。家族の協力を得、紛失しても良い金額にしている。買い物は、職員と一緒にレジに並ぶが、計算能力の低下から財布を職員に渡し支払いをしている。札での支払い時には、ご本人に出していただくよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が入居者に働きかける場面が多く、散歩やドライブに出かけている。季節感を感じていただけるようグループで季節の花を見に行ったり、入居者の希望に添い外食や買物したりしている。また、家族による外出も多い。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じていただけるような外出は、行事として企画し、支援している。また、家が近くにある方で、「帰りたい」との要望があれば、付き添い支援もしている。	○	距離のある所への個別の外出支援は、家族に依頼し、協力をいただいている。当ホームでの対応も検討したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞や絵手紙を作成して出している。入居者の依頼があれば、日常的に電話ができるよう支援している。本人の持つ資源として交流のある書店などに電話をかけ、訪問してもらい購入している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人たちが気軽に来やすい雰囲気づくりをしている。原則的な面会時間はあるが、いつでも訪ねていただけるような配慮をしているため、家族は自由に入出入りしてくれている。家族と一緒にゆっくり過ごしてもらえるように、飲み物やおやつなど用意している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を掲げており、職員はその趣旨を勉強会等で理解している。日々の申し送り等でも、自覚しない身体拘束が行われてないかなどを点検している。	○	ベッド柵が外れて転倒・転落事故となる方、または寝返りや起き上がりが必要な方についてはベッド柵を固定している。自分で降りられるスペースは確保しているが、検討していく必要がある。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在夜間にトイレの位置が分からず、他室を開けてしまう方がいる為、ご自分の意思で居室の鍵をかけている方も数名いらっしゃる。玄関においては、急な階段と一歩外は国道で車量も多く危険であり、職員の見守りが十分できない為、鍵をかけている。入居時にご家族に説明行い、了解を得ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、全員の状況を把握するよう努めている。居室で過ごされている方の様子も訪室し穏やかな会話をする事でストレスをかけないように配慮し、把握している。夜間は定期的に巡回し入居者の状態確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員は把握し、取り扱いを全て禁止するのではなく心身の状態に合わせて預かるなどの管理は行っている。職員が管理する危険物の保管場所は決まっており数がきちんとあるかのチェックは毎日行っている。包丁やフォーク、ナイフ等を収納している引き出しは、夜間施錠している。	○	何が危険であるかの判断基準を検討する取り組みをしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	想定される事故を検討し、マニュアルを作っている。またヒヤリハットを記録し、職員の共有意識を図っている。万一事故発生の場合には、事故報告書を作成し、事故原因の今後の予防対策について検討し、家族への説明報告を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時マニュアルを整備している。勉強会を実施し周知徹底を図っている。また消防署の協力を得て、救急手当てやADEの使用方法などの訓練を行っている。月1回何らかの訓練を実施している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回何らかの訓練を実施している。緊急連絡網を整備し、夜間の通報訓練や消防署の協力を得て避難訓練・消火器訓練を行っている。地域の協力体制は、運営推進会議などで協力をお願いしているため委員の方からも事故予防についての積極的意見が聞ける機会がある。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者一人ひとりの抱えるリスクが違っており、職員は個別に見直しする作業を行っている。行動の制限を過剰にするのではなく、利用者の希望に添った暮らしを送ってもらいその姿を家族にみてもらったり説明を行い、その人らしい暮らしを継続していることに理解を得られるように努めている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を把握しており、状態の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い変化時の記録をつけている。状況によりかかりつけ医の診察を受け、ご家族に連絡している。情報は申し送りなどで職員は共有しており、医師の協力を得て早期に対応できている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は、本人に手渡し服薬確認をきちんと行っている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られるときは詳細な記録をとり、協力医療機関との連携を図っている。職員全体が服薬状況がわかるように、服薬ファイルを改善中である。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動や水分量のチェックは行っているが、働きかけは十分でないのが現状である。入居者は、健康面での話しに興味を示される方も多いため便秘予防の情報も取り入れ、日中の活動を増やすなど本人ができることから便秘予防に取り組んでいく。また、薬や浣腸を使用する場合も今後の自然排便に向けての指示を医師に仰ぐ。	
76	○口腔ケア 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	勉強会や口腔ケアのマニュアルを整備しており、折に触れ入居者にも何故大切であるかを話題にし、意識付けている。必要な入居者には介助を行ったり、力に応じて声かけや見守りをしている。歯茎から出血したり、口臭がひどい場合など状態に合わせ主治医に相談したり歯科受診を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状態を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。好みの物、嫌いな物を職員は把握し、個別に対応し食が進むような工夫をしており、栄養バランスにも配慮し、活動量の多い方には、捕食をしている。水分摂取量の少ない人はポットにお茶を用意したり、声かけし飲用を働きかけている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアル、ノロウイルスマニュアルを作成し、勉強会を実施している。早期発見、早期対応に努め、入居者及び家族の同意をいただき、職員と共にインフルエンザの予防接種を受けている。玄関にマスクや手指消毒剤を置き訪問者からの感染予防を行い協力してもらっている。手洗いや嗽の大切さを繰り返し説明し奨励している。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は、熱湯消毒を行い、まな板やふきんは、その都度漂白し清潔保持に努めている。食材の管理は、ほとんどが厨房が管理している。購入時は、新鮮で安全な物を選び、冷蔵庫の食材チェックを頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や駐車場にプランター、花壇を設置しており、季節感が味わえるよう工夫している。椅子の設置もしており花を楽しんでいる。家の玄関というイメージを崩さないような空間づくりができています。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に地域の方が撮った写真を飾ったり、季節感のある作品を入居者と共に作り掲示している。又、茶碗を洗う音、ご飯の炊けるにおい、心地よい音楽、季節感が味わえる料理や飲み物を工夫している。奇抜でなく利用者の家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファをおき、一人でもくつろげる場所を作っているが、車椅子を利用している方が多く、使用する機会は少ない。現在はリビングに集まり仲の良いもの同士が会話している。また、互いの居室を訪ね、会話を楽しんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたタンスや椅子以外に、時計やテレビ、ぬいぐるみ、家族の写真を持ち込み、居心地のよい環境を工夫している。一見乱雑に見える部屋でもその方にとっては使い勝手がよく、職員サイドで捉えず本人の居心地のよさを優先する配慮をしている。危険な場合は、本人や家族と相談し配置など工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気をし、空気の入替えを行っている。冷暖房は常温の±5℃を基本に、利用者の身体状況に合わせて個別に調節している。また、冷暖房に頼らず衣類や寝具での自然な調整を行っている。気になるにおいについては、トイレなどこまめに清掃を行い、換気扇で悪臭が出ないように工夫している。時に消臭剤の使用も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの住宅環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。入居者一人ひとりが、使いやすい高さが違うため、椅子や机などを利用し自立を意識した工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり、新たな混乱や失敗が生じた場合は、その都度、職員で話し合い、本人の不安を取り除けるよう試みている。自信回復のための場面をさりげなく設定するようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、入居者が楽しみながら活動できるよう環境を作っている。又、ベンチを置き、日向ぼっこができる工夫をしている。外気浴を嫌がる方も、行事などで興味をひき出し、戸外スペースを楽しむことができる。	○	中庭を利用し、金魚を飼うことを検討中。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の大半が事業所周辺の方で、又、職員も地元が大半である。この関係が入居者と安心できる人間関係が維持できている。職員の思い込みや先入観を配慮し、問題となる行動でも、その方にとっての事実を正確に受け止め理解し、その人らしい生活ができるよう理念である「笑顔で語り支え合う安心な暮らし」を意識化し、実践していきよう取り組んでいる。又、どの方も個性と自己主張が強く認知症状が進行し、共同生活で強調してゆく事が苦手となっていく中で、それぞれの個性・主張を尊重し、個別対応に取り組んでおります。